

令和6年度安全安心協議会 会議録（要点録）

1 開催日時

令和7年1月21日（火）10時～11時30分

2 出席者

安全安心協議会委員44名（50名中）

区側出席者3名

3 意見交換

練馬区内における特殊詐欺等の状況と対策について

質疑応答

【委員】

地域の公園のまわりの家で、インターホンを鳴らし、「開けろ開けろ」と話す訪問者がいたとの情報があった。町会に相談があり、ドアを開けないよう忠告し、町会から警察に連絡した。警察と相談して、パトロールをしてもらうと、不審者は来なくなつた。

町会は頼りになる。今後、まず、町会に電話するなど相談するとの話があった。

【関係機関（警察署）】

訪問してドアを開けることを求める不審者が多く、110番通報されている。区内で強盗事件が発生したこともあり、住民の防犯意識も高まっている。

ただ、訪問については、全てが闇バイトや強盗目的の不審者とは限らず、通常の業者でもインターホン越しではなく、対面を求めてくることがある。

対策としては、自分が呼んでいない人が家に来たら、対面を求められても出ないで対応し、不審な点がある場合は、警察に相談いただく。通報内容等に応じて、警察が現場に行き、パトロール等を継続して実施する。

【委員】

リーフレットやチラシを配っても当事者意識がないと危機感を持たない。参考事例として、会社の正門や食堂にテレビモニターを設置して、リーフレットを次々と画面で切り替えるデジタルサイネージを導入することで、紙で配るより目に留まり認知度が高まった経験がある。

犯罪に遭わないようにする話はよくあるが、闇バイトに加入しないように学校教育の中で伝えることで減らせると思う。

【事務局（危機管理室）】

様々な方法で周知啓発をすることが必要だと思う。現在行っている民生児童委員や町会等からの対面での周知啓発も非常に効果がある。危機管理部門で防災も担当して

いるが、今年度ショート動画を使った動画は非常に効果が上がった。引き続き、周知啓発の充実を図る。

また、闇バイト対策について、青少年館や児童館等に闇バイトの危険性についてのリーフレット置くなどの周知を行っている。関係部署とも連携しながら、しっかりと対応を進めていく。

【関係機関（警察署）】

学校への対策は資料（P.6 都立高校）のほかに、日頃から小中高の学校に赴き、セーフティ教室で「闇バイトに加担しない」といったことや「SNS・スマホの正しい使い方」、「ネットリテラシー」のような様々な話をしている。今後も順番に回りながら、小中高それぞれに合わせた内容で対策を実施していきたい。

【委員】

民生委員の活動等についても、昔は民生委員が訪問すると対面で対応してくれる家が多くたが、最近は、チラシなどをポストに入れるようなことも増えている。また、現状として、高齢化が進み、寒い時期や暑い時期では訪問できる件数がかなり減っている。地域の理解をいただけるよう、民生委員が特殊詐欺についての資料配布と説明に伺う旨の広報を行政側も強化してほしい。

また、警察のパトロールは不審者の抑止につながるため、夜間や個別訪問など充実してほしい。

【関係機関（警察署）】

パトロールの要望について、地域住民からの要望は多数あり、各担当の交番からパトロールを行っている。人員体制等もあるが、可能な限り各地域を巡回できるよう努めている。

【事務局（危機管理室）】

民生児童委員には10月に特殊詐欺のリーフレット、12月に防犯対策のチラシについて、配布をお願いした。防犯意識が高まる中で、訪問時に対面で話すことができない状況があるということも、福祉部門から聞いているため、区としても、お願いするだけでなく、活動の周知や支援を庁内関係部署と連携しながら取り組んでいく。

【委員】

特殊詐欺の増加の原因のひとつとして、共同住宅が多く、町会に入らないなど、コミュニティの崩壊が挙げられると考えている。また、町会が大きいため、地域コミュニティを確立するためには、町会を小さくしたほうがいいと思う。私も長期に渡って、様々な各委員会をやらせていただいた中で、実験的に様々な職業の方に声を掛け、小さなコミュニティを確立したところ、様々な情報を共有できるようになった。身近なコミュニティを確立することで、特殊詐欺の防止につながると思う。

【委員】

私が所属する団体では、20カ所ぐらい拠点を作り、そこから網の目パトロールを複数回実施している。その時に特殊詐欺に関するチラシやティッシュをポスティングしている。

【事務局（危機管理室）】

区内でも集合住宅が多く、様々な取組が必要ではないかと考えている。危機管理部門においては、防犯のほかに防災もあるが、地域の皆さんのが訓練などの地域活動に参加いただけるようテーマ作りを工夫している。また、組織横断的に地域のコミュニティの活性化につながるよう取り組んでいく。

【委員】

防犯ガラスや防犯フィルムを貼ると割れた際に音がしなくなるという話を聞いた。また、防犯フィルムの貼り方など効果的な使用方法等について、教えていただけた。

【関係機関（警察署）】

防犯フィルムを貼ることは、音よりも侵入に時間をかけることが第一の目的である。両面貼ることは、割れにくくなり、非常に良いと思うが、片面の場合でも、内側に貼ることによって、時間を稼ぐことができ、在宅の場合は、110番通報することもできる。

【委員】

自家用の防犯カメラについて補助してもらえるか聞きたい。今まででは、町会・商店会では手続きし、補助を受けて設置しているが、個人用も助成してもらいたい。

【事務局（危機管理室）】

防犯カメラについては現在、町会・商店会への補助のみとなっている。また、教育委員会については、通学路の防犯ということで、約400台の防犯カメラを設置している。

防犯フィルム等の防犯グッズについてのニーズは、問い合わせが多く入っており、住まいの防犯対策の周知啓発に力を入れているが、今後、助成についても検討していく（注）。

（注：区において、令和7年4月から個人向けの助成も開始した。）

【委員】

闇バイトによる強盗などは、命にかかわることもあるため、窓に設置するブザー等に対する補助をしてほしい。

【事務局（危機管理室）】

防犯グッズの必要性については、どういう取組ができるかも含めて、しっかりと考えていく。

【委員】

悪質な業者の中には、安全なバイトと思わせるように時給を少し高くして募集している。また、身分証明書をコピーされ、悪質とわかつても自力で抜けられない若者が多くいるため、通報制度等の対策を考えてほしい。

【事務局（危機管理室）】

高校生や大学生などの若い世代に向けた周知啓発の充実についても検討していくたい。

また、資料（P.4）に相談窓口として、総合相談センターやヤングテレホンコーナーを記載している。実際に相談している人も多くいるので、活用してもらいたい。

【委員】

再犯防止の取組としても周知することが大切だと思う。また、私の地域では警察の巡回連絡が月に1回あり、異常なしと記載しているハガキをポスティングしてくれているので、引き続き実施していただきたい。

防災について、最近地震が多く、夜、懐中電灯と笛を枕元に置いている。区でも広報してほしい。

【事務局（危機管理室）】

闇バイト対策については、再犯防止の取組の中でも、関係部署と連携し、周知をしていく。

【関係機関（警察署）】

パトロールについては、地域の警察官がスケジュールを立てて担当エリアを訪問でかけるように実施しているため、今後も引き続き実施していく。